

平成25年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年11月14日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社SmartEbook.com
 コード番号 2330 URL http://www.smartebook.com
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 安嶋 幸直
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長 (氏名) 飯田 潔 TEL 092-263-5911
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期第3四半期の連結業績（平成25年1月1日～平成25年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第3四半期	365	△1.1	△1,149	—	△1,120	—	△1,137	—
24年12月期第3四半期	369	△61.1	△674	—	△586	—	△569	—

(注) 包括利益 25年12月期第3四半期 △1,134百万円 (—%) 24年12月期第3四半期 △570百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第3四半期	△518.20	—
24年12月期第3四半期	△259.62	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年12月期第3四半期	2,642	2,273	86.1	1,036.12
24年12月期	3,631	3,408	93.8	1,553.25

(参考) 自己資本 25年12月期第3四半期 2,273百万円 24年12月期 3,408百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年12月期	—	0.00	—	—	—
25年12月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年12月期の連結業績予想（平成25年1月1日～平成25年12月31日）

当社グループが展開しているコンテンツ事業及びファンディング事業は、市場環境の変化が激しく、不確定要素が大きいため合理的な予想値の算定を行うことは困難であり、現段階では適切な予想の開示ができないと判断したため、記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 有

④ 修正再表示： 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

25年12月期3Q	2,194,270株	24年12月期	2,194,270株
25年12月期3Q	－株	24年12月期	－株
25年12月期3Q	2,194,270株	24年12月期3Q	2,194,270株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料における将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。平成25年12月期の配当予想額につきましては、現時点で業績予想について適切な開示が困難であると判断し記載していないことから、配当につきましても未定とさせていただきます。予想額の開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7
(5) セグメント情報等	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済成長を目指す「アベノミクス」の追い風を受け円安によって輸出が持ち直し、消費マインドも改善するなど、徐々に景気回復基調の兆しが見られる一方で、消費税率の引き上げや、欧州の債務問題やアメリカの財政状況等、先行き不透明となっております。

当社グループを取り巻く環境として、2013年度のスマートフォン出荷台数は2,990万台（前年度比0.6%増）で前年度並みと見込まれる中、2013年9月末のスマートフォン契約数は5,000万件を突破し、携帯電話端末に占めるスマートフォン契約数比率は42.2%と上昇するなど、2013年以降、2017年度末には、スマートフォン契約数は8,924万件で携帯電話契約数の68.2%に拡大すると見込まれております。また、電子書籍コンテンツ市場は、2013年度に1,050億円（2011年度比1.5倍）、2016年度には1,850億円（同2.8倍）に達すると見込まれております。（出所：株式会社MM総研「スマートフォン市場規模の推移・予測（2013年10月）」／ICT総研「2013年度 電子書籍コンテンツ市場の需要予測」）

このような状況の中、当第3四半期連結累計期間における当社グループは、2013年8月14日「再成長戦略プランの進捗」にて各エリアでの海外戦略に掲げておりますエリア参入条件となる、①ここ10年間で経済成長が期待できるエリアでの参入、②電子書籍市場がアーリーステージ（導入期）であるエリアでの参入、③現地の顧客資産を保有した課金決済可能なプレーヤーとの協業を進めるため、インド大手通信キャリアの「Aircel」やインドネシアの通信キャリア「AXIS」にて電子書籍配信サービスを開始し、中国ネット書店最大手の「中国図書網」との協業サービス「Book China Ebookstore」のサービス提供も開始するとともに、第3四半期以降にサービス開始予定のプラットフォーム向けの配信タイトルの権利獲得を引き続き、進めてまいりました。

第3四半期の売上については、コンテンツ事業においては、海外でのBtoBtoCビジネスを拡大するため、新規サービスとして、インドとインドネシアにて電子書籍配信サービスを開始しましたが、海外でのフリーミアム展開を行うための各エリアの販売チャネルやリテラーとのサービス展開に注力したため、減収となりました。マスターライセンス事業においては、海外で保有していたライセンスの販売等により増収となり、全体として前年同期比微減となりました。損益面については、海外エリアのサービス開始に伴うサイト運営の開発費および運営保守費、フリーミアム展開による広告宣伝費およびポイント消費に係るロイヤリティ発生により、営業損失は増加いたしました。

この結果、当社グループの連結業績につきましては、売上高365,394千円（前年同期比1.1%減）、営業損失1,149,894千円（前年同期は営業損失674,168千円）、経常損失1,120,964千円（前年同期は経常損失586,849千円）、四半期純損失1,137,068千円（前年同期は四半期純損失569,680千円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

①コンテンツ事業

コンテンツ事業では主に、中南米、ASEAN地域でのプラットフォーム開発並びに、現地出版社の配信タイトルの獲得を進め、インド大手通信キャリアの「Aircel」やインドネシアの通信キャリア「AXIS」にて電子書籍配信サービスを開始しました。中国においては、ネット書店最大手の「中国図書網」への電子書籍サービス「Book China Ebookstore」の展開に向けての開発とSNSサービス「QQ空間」、「朋友網」への電子書籍・写真共有サービス「PhotoMate」の提供を進めてまいりました。

しかしながら、第3四半期中における海外売上高の寄与度はまだ小さく、前年同期比売上は減少いたしました。

この結果、当該事業の売上高は252,601千円（前年同期比24.8%減）、セグメント損失は977,457千円（前年同期はセグメント損失402,441千円）となりました。

②マスターライセンス事業

マスターライセンス事業では、ライセンスの販売等を中心に事業展開いたしました。

この結果、売上高は105,923千円（前年同期比1,138.0%増）、セグメント利益は47,811千円（前年同期はセグメント利益343千円）となりました。

③その他の事業

その他の事業では、請求収納代行業務の取次、金融商品の売買を中心に事業展開いたしました。

この結果、売上高は6,869千円（前年同期比71.6%減）、セグメント損失は7,663千円（前年同期はセグメント損失16,375千円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①総資産

当第3四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べて989,684千円減少し2,642,047千円となりました。主な要因と致しましては、損失計上となったこと及び海外展開投資等により、現金及び預金が1,243,561千円減少したこと等によりますが、一方積極的にソフトウェア開発を行ったことにより無形固定資産が増加いたしました。

②負債

当第3四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比べて144,950千円増加し368,421千円となりました。主な要因と致しましては、プロモーションの実施により広告費に係る未払金が増加したこと等によるものであります。

③純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べて1,134,634千円減少し2,273,625千円となりました。要因と致しましては、四半期純損失の計上によるものであります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。これによる損益に与える影響額は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、当第3四半期連結会計期間において、売上高が前年同期と比較して減少しており、継続的な営業損失の発生及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。これにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、当第3四半期連結会計期間末における現金及び預金の残高は1,657,798千円であり、財務面に支障はなく、継続企業の前提に関する重要な不確実性はないものと判断しております。

当社グループは、当該重要事象等を解消、又は改善するため、以下の対応策を講じて参ります。

- ①電子書籍に関する自社ビューワー及び自社プラットフォームの開発・改善を促進し、海外ローカルエリアの書籍タイトル配信許諾を確保し、これらを各国の通信キャリアやSNSサイト、リテラー等へ提供することによる大手との協業獲得に注力し、BtoBtoCビジネスモデルのグローバル展開を進めます。
- ②日本・英国・米国にて特許を取得した電子書籍共有サービス「Book-mate」を活用し、ソーシャルリーディングを通じた新たな電子書籍体験を提供し、ユーザー層の拡大と競合との差別化を図ります。
- ③許諾を受けたタイトルのデジタルコンテンツ化から選定・配信までに関わる運用業務について順次自動化・合理化を推進し、期間短縮とコスト低減を図ります。
- ④顧客基盤を持つ協業先とのBtoBtoCビジネスに注力するとともに自社サイト「MOBI-BOOK」を多チャネルで展開し、国内BtoCビジネスの強化を図ります。

以上の対応策を推進することにより、国内外における安定収益基盤の確保と原価及び販管費の一層の削減、営業損益の改善を図っていく所存です。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,901,360	1,657,798
売掛金	317,411	342,950
コンテンツ資産	83,865	65,821
その他	223,821	313,939
貸倒引当金	△230,938	△230,275
流動資産合計	3,295,520	2,150,235
固定資産		
有形固定資産	14,270	16,803
無形固定資産	253,537	428,524
投資その他の資産		
投資有価証券	24,226	24,295
その他	44,177	22,188
投資その他の資産合計	68,403	46,484
固定資産合計	336,211	491,812
資産合計	3,631,731	2,642,047
負債の部		
流動負債		
買掛金	35,826	68,249
未払金	136,991	272,724
リース債務	4,284	4,063
未払法人税等	13,847	7,850
契約解除損失引当金	5,106	—
その他	14,391	12,927
流動負債合計	210,447	365,815
固定負債		
リース債務	5,599	2,606
その他	7,424	—
固定負債合計	13,024	2,606
負債合計	223,471	368,421
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,141,876	4,141,876
資本剰余金	3,104,327	3,104,327
利益剰余金	△3,772,414	△4,909,482
株主資本合計	3,473,790	2,336,722
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△65,530	△63,185
その他の包括利益累計額合計	△65,530	△63,185
少数株主持分	—	88
純資産合計	3,408,260	2,273,625
負債純資産合計	3,631,731	2,642,047

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
売上高	369,492	365,394
売上原価	257,695	319,602
売上総利益	111,797	45,792
販売費及び一般管理費	785,965	1,195,686
営業損失(△)	△674,168	△1,149,894
営業外収益		
地金売却益	52,788	10,897
受取利息	6,541	7,318
債務勘定整理益	18,442	—
為替差益	390	33,997
その他	9,815	8,550
営業外収益合計	87,978	60,764
営業外費用		
地金評価損	—	31,670
支払手数料	317	—
その他	341	163
営業外費用合計	659	31,834
経常損失(△)	△586,849	△1,120,964
特別利益		
投資有価証券売却益	31,769	—
特別利益合計	31,769	—
特別損失		
固定資産除却損	5,860	12,601
和解金	5,081	—
特別損失合計	10,942	12,601
税金等調整前四半期純損失(△)	△566,022	△1,133,566
法人税、住民税及び事業税	3,658	3,556
法人税等合計	3,658	3,556
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△569,680	△1,137,122
少数株主損失(△)	—	△54
四半期純損失(△)	△569,680	△1,137,068

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△569,680	△1,137,122
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△1,070	2,324
その他の包括利益合計	△1,070	2,324
四半期包括利益	△570,750	△1,134,797
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△570,750	△1,134,723
少数株主に係る四半期包括利益	—	△73

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自平成24年1月1日 至平成24年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コンテンツ	マスターライツ				
売上高						
外部顧客への売上高	335,975	9,307	24,209	369,492	—	369,492
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	335,975	9,307	24,209	369,492	—	369,492
セグメント利益又は損 失(△)	△402,441	343	△16,375	△418,472	△255,695	△674,168

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融商品の売買、請求収納代行業務、その他を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△255,695千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成25年1月1日 至平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コンテンツ	マスターライセンス				
売上高						
外部顧客への売上高	252,601	105,923	6,869	365,394	—	365,394
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	252,601	105,923	6,869	365,394	—	365,394
セグメント利益又は損 失(△)	△977,457	47,811	△7,663	△937,309	△212,585	△1,149,894

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融商品の売買、請求収納代行業務、その他を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△212,585千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結累計期間から、「その他事業」に含まれていた「マスターライセンス事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。